

会 議 記 録			
会議の名称	環境市民厚生常任委員会		会議場所 全員協議会室 担当職員 小野
日 時	令和5年4月26日（水曜日）	開 議	午前 10 時 00 分 閉 議 午後 0 時 09 分
出席委員	◎大塚 ○富谷 大西 大石 土岐 梅本 平本 西口		
理事者出席者	【環境先進都市推進部】山内部長 【環境政策課】大倉課長、鈴木副課長、名倉副課長 【資源循環推進課】鈴木課長、曾我部主幹、宮川資源循環推進係長 【市民生活部】森川部長 【市民課】坂田課長、福田市民相談係長 【火葬場整備推進課】田中課長 【保険医療課】吉田課長 【税務課】松野課長、上澤諸税係長 【健康福祉部】亀井部長 【地域福祉課】田端課長、中野生活支援担当課長 【障がい福祉課】西山課長、藤田障がい者給付係長 【高齢福祉課】松本課長 【健康増進課】中山課長、平井副課長 【こども未来部】中川部長 【子育て支援課】川田課長、中村母子事業担当課長、西村こども政策係長 【保育課】原田課長、中井保育所担当課長、井尻副課長、藤田こども給付係長		
事務局	井上事務局長、小野主任、駒田主査		
傍聴者	市民 1名	報道関係者 0名	議員3名（山木、松山、木村）

会 議 の 概 要

1 開 議

2 行政報告

[理事者入室] こども未来部

(1) 低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金について

<こども未来部長>

(あいさつ)

<子育て支援課長>

(資料に基づき説明)

～10:09

[質疑]

<大西委員>

申請が必要な方の収入が減ったことをどのように把握するのか。

<子育て支援課長>

市では把握できないため、任意の1月の収入を申告していただき、その金額を12か月換算し、1年間の収入見込みとして判定する。

[理事者退室] こども未来部

[理事者入室] 環境先進都市推進部

(1) 家庭ごみ分別区分拡大開始後の状況について

<環境先進都市推進部長>

(あいさつ)

<資源循環推進課長>

(資料に基づき説明)

～10:26

[質疑]

<大石委員>

焼却するごみのうち、紙類はどのくらい減量されたのか。

<資源循環推進課長>

傾向を分析し報告する。

<梅本委員>

自治会未加入世帯への周知方法は。

<資源循環推進課長>

チラシの配布など、全世帯に情報が行き渡るよう取り組んでいきたい。

<土岐委員>

問合わせが多い内容は。

<資源循環推進課長>

汚れたプラスチックは燃やすしかないごみでよいのかなど、区分に関する問合わせが多い。

<大西委員>

カンやビンが減っている理由は。

<資源循環推進課長>

ごみの排出量が全体的に減量となっている。ごみの出し控えがあったのではないかと考えている。

<平本委員>

区分が分かりにくいという声がある。一定期間は柔軟に対応するとのことであるが、どのくらいの期間か。

<環境先進都市推進部長>

3か月程度で一旦期間を区切り、状況を把握する中で次の期間を検討していきたい。また、傾向を分析する中で、間違えるポイントをまとめて周知するなど、段階を区切って取組を進めていきたい。

<平本委員>

高齢者から、今のパンフレットだけでは区分が分かりにくいと聞くと、何か取組を行う予定はあるか。

<環境先進都市推進部長>

より分かりやすいものを作成し、各家にポストインしたいと考えている。また、職員が集積場に行き、分別方法をレクチャーするなど、総合的に対策を講じていきたい。また、ごみの排出が難しい方などには、ふれあい収集なども周知していきたい。

<平本委員>

区を単位として説明会を実施していただけるとのことであるが、今後も説明会は継続していくのか。

<環境先進都市推進部長>

希望があれば、区や団体などを対象とした説明会も実施する。

<平本委員>

資源ごみの区分が増えたことで、ごみ袋が増えるが、市民に対してどのようなメリットがあると考えているのか。

<環境先進都市推進部長>

亀岡市循環型社会推進審議会で、有料の資源ごみを作ってはどうかという議論もあったが、コロナ禍で、社会情勢が不安定な中、ごみの排出コストを増やすのはいかなものかという意見があり、これまで有料の袋に入れて排出していたごみのうち、資源ごみを指定のない透明の袋に入れて排出することで、経済的負担を軽減する効果があると考えている。

<西口委員>

紙類の中には、個人的な内容が含まれるものもあるが、それも資源ごみとして排出するのか。

<資源循環推進課長>

そういったものは、燃やすしかないごみとして排出していただいて問題ない。

<梅本委員>

ごみの分別を進めることで、ごみが減量されていくと思うが、有料の大きなサイズの袋であると、いっぱいになるまで数日かかる。週2回の収集日に排出できるよう、新たに小さなサイズのごみ袋の作成を検討できないか。

<環境先進都市推進部長>

小さいサイズのごみ袋の作成も検討する必要があると考えている。

<富谷副委員長>

雑紙が、燃やすしかないごみに混入している場合は回収されないのか。

<資源循環推進課長>

回収するが、可能な範囲で協力していただきたい。

<富谷副委員長>

集積場に掲示する、新たな区分を記載した看板は配布しているか。

<資源循環推進課長>

区分拡大までに各自治会に配布している。

<富谷副委員長>

自治会単位ではなく、区単位のほうが周知できると思うがどうか。

<資源循環推進課長>

希望があれば、区単位での説明会を行っており、丁寧に対応していきたいと考えている。

(2) (仮称) 環境政策情報発信・交流拠点施設の整備について

<環境政策課長>

(資料に基づき説明)

～11:02

[質疑]

<平本委員>

施設の名称は市民公募するのか。

<環境政策課長>

そのようなことも検討する。

<平本委員>

施設のコンセプトは。

<環境政策課長>

環境と経済活動をつなぐとともに、亀岡市のブランド力を上げていくことを目指し、環境に興味がある方もない方にも集まってもらえる、横展開が図れる施設としたい。

<平本委員>

1階の屋外ピロティの活用方法は。

<環境政策課長>

広く利用方法を検討したい。

<土岐委員>

駐車場はあるのか。

<環境政策課長>

できるだけ公共交通機関でお越しいただきたいと考えているが、駐車場がないため、車で来られる方は近くのコインパーキングなどを利用していただきたいと考えている。

<土岐委員>

車いすを利用されている方への配慮はされているのか。

<環境政策課長>

配慮している。

(3) スポごみワールドカップ京都府予選の開催について

<環境政策課長>

(資料に基づき説明)

～11:15

[質疑]

<大石委員>

どのように配点されるのか。

<環境政策課長>

ペットボトルや金属など、種類によって配点される。ごみの大きさや制限時間などによる減点もある。

<平本委員>

全国大会への旅費は自己負担なのか。

<環境政策課長>

出場者の旅費は、主催者が全て負担する。

<大西委員>

当日にエントリーするのか。

<環境政策課長>

事前エントリー制である。

<大西委員>

この内容は、いつ広報するのか。

<環境政策課長>

明日、4月27日に周知する予定である。

[理事者退室] 環境先進都市推進部

[理事者入室] 市民生活部

(1) 亀岡市国民健康保険条例の一部を改正する条例の専決処分報告について

<市民生活部長>

(あいさつ)

<保健医療課長>

(資料に基づき説明)

～11:25

[質疑なし]

(2) 亀岡市税条例及び亀岡市都市計画税条例の一部を改正する条例の専決処分報告について

<税務課長>

(資料に基づき説明)

～11:33

[質疑なし]

(3) 亀岡市印鑑条例の一部を改正する条例の制定について

<市民課長>

(資料に基づき説明)

～11:36

[質疑]

<大石委員>

i P h o n e への対応予定は。

<市民課長>

現時点で対応しているのは、OSが9以上のA n d r o i d 端末のみである。

i P h o n e は、現時点で対応していないが、国が早期実現に向けて取組を進めていると聞いている。

[理事者退室] 市民生活部

[理事者入室] 健康福祉部

(1) 令和5年度新型コロナウイルスワクチン接種について

<健康福祉部長>

(あいさつ)

<健康増進課長>

(資料に基づき説明)

～11:51

[質疑]

<平本委員>

現在の感染状況は。

<健康増進課長>

全ての方を対象とした報告は廃止されており、保健所には高齢者や妊婦など、重症化しやすい方の状況が報告されている。市町村や保健所ごとの人数は報告されていない。京都府全体の状況は、毎日ホームページで報告されており、感染者数は若干の増加傾向にあるが、感染拡大という程度ではないと思っている。

[理事者退室] 健康福祉部

3 行政視察について

<事務局主任>

(資料に基づき説明)

<大塚委員長>

前回の委員会において、行政視察を行うにあたり、亀岡市の現状と課題を把

握するため、事前に勉強することとした。次回5月31日（水）に視察テーマの一つである「ヤングケアラー支援」について、京都府ヤングケアラー総合支援センター、本委員会、執行部の3者で、本市や京都府の現状・課題、今後の方向性について意見交換を行う。意見交換を行うにあたり、円滑に協議を進めるため、特に聞きたい、深掘りしたい事項がある場合は、5月9日（火）までに事務局へ申し出ていただきたい。

4 その他

<大塚委員長>

今年度の環境市民厚生常任委員会における活動テーマを決めたいと思うが意見はあるか。

<大西委員>

行政視察も行うが、亀岡市でこれから新たに取り組む内容であるヤングケアラー支援をテーマとしてはどうか。

<平本委員>

ヤングケアラーという問題は、福祉部局や教育部局だけでなく、その他の部局や関係機関と連携する必要がある、昨年度も重層的支援体制整備事業をテーマとして活動したが、今年度はヤングケアラー支援を中心とした重層的支援としてはどうか。

<富谷副委員長>

国ではこども家庭庁が創設され、亀岡市でも、令和6年度にこども家庭センターが開設される予定である。また、国は、子ども関連予算の倍増を計画しており、子ども施策の改革を行う大切な時期を迎えている。子どもに関する様々な取組を行う中で、市や議会がどのような役割を果たさなければならないのか、執行部と協議していきたい。

<梅本委員>

ヤングケアラー支援を中心とした重層的支援体制整備事業としてはどうか。

<西口委員>

的を絞ってヤングケアラー支援としてはどうか。

<大塚委員長>

「ヤングケアラー支援を中心とした重層的支援」をテーマとしてよいか。

—了—

<大塚委員長>

今年度は、この内容を重点テーマとして活動していくこととする。次回は、5月31日（水）午前10時30分から、京都府ヤングケアラー総合支援センター、こども未来部との3者で意見交換を行う。その後、案件があれば委員会を開催することとする。

散会 ～12:09